



こんなことあったよ！ のしろ白神ネットワークの活動レポート

平成 22 年 2 月 15 日(月)
のしろ市民まちづくりフォーラム 編

2 月 15 日(月)、能代キャッスルホテルで「のしろ市民まちづくりフォーラム」が開催されました。用意した席が満杯になるほどで、ようやくのしろ白神ネットワークの活動にも関心が高まってきたのでしょうか。ネットワーク会長・能登さんのあいさつに続き、東京大学の堀繁先生による「地域資源を活かしたまちづくり・みちづくり」の基調講演がありました。

ご講演は「いいまちとは何か、優れた資源がなければ何も出来ないのか」という問題提起から始まりました。世界遺産や国宝、古いまち並みが優れた資源なら、ほとんどのまちは地域づくりが出来ません。地域にあるものを活かすことの必要性、持っている資源を丁寧に扱うこと、大事に思って磨くという考え方を示していただきました。

その後、2 枚の風景を見比べてどちらの景観が好ましいかを会場の参加者に聞きながら、景観づくりに対する我々の思い込みと、実際に受ける印象の違いについてご説明をいただきました。中でも形が大事だという主張にはハッとさせられました。人はルールや標識などには関心を示さず、形を見て自分が大事にされているかどうかを判断するというものです。「私に対する配慮の度合い」を評価するというもので、地域の印象を良くするために、道から地域が眺めやすいような取り組みを求めています。また、人の視線は上に向かない、歩くところや地面など、見えるところを重点的に取り組むべきというお話で、建物の 2 階や屋根よりも地面と 1 階部分に仕掛けを施した事例を見て、これなら能代でも出来そうだと感じました。

お客様をもてなす 3 つの仕掛け、あいさつ、迎客、集客の装置は興味深い内容でした。植物やベンチ、照明、木のドア、手書きの看板やメニューなどはやろうと思えば可能です。ただ、そのほとんどが、ほっとステーションにあることに気づき、日曜朝市に来る市民が増えたのもその一因なのかなと思いました。取り組みを深めることで、もっとお客さんを増やすことが出来るかもしれません。また、サクラも大事という話も、いろんな場面で応用出来そうです。人は人のいるところに集まりますね。



約 80 名の参加がありました。司会は昨年のリベンジで原田浩司さん（山村再生支援センター）にお願いしました。



会場の外には今年も木の香る道の模型やベンチを展示したほか、活動を PR するコーナーも設けました。



堀先生のお話は具体的で、これから何をしなければよいのかが良くわかります。



齊藤滋宣 能代市長
渡邊浩昭さん (NPO 法人新屋参画屋)
木下克也さん (弘前市中心市街地活性化協議会)



三浦真紀さん (国土交通省東北地方整備局)
植野芳彦さん (木橋技術協会)



こんなことあったよ！ のしろ白神ネットワークの活動レポート

堀先生の後には弘前市中心市街地活性化協議会の木下さん、秋田市の NPO 法人新屋参画屋の渡邊さん、東北地方整備局道路部道路計画第二課の舟山さんの話題提供、続いてフロアディスカッションがありました。長時間のフォーラムにも関わらず、会場に熱気が感じられます。何かを掴もうという意識を持って参加された方が多いように見えました。

閉会式の市長のあいさつには、市職員にとっては耳の痛い内容が含まれていました。市のすばらしい資源がある現地に行ったことがない、または知らない職員がいるというものです。積極的に現場に出る努力を求めています。

懇親会はパネラーも含め多くの方が参加し、とても賑やかでした。東北地方整備局の三浦部長と堀先生は付き合いが深く、山形県内の地域づくりに大きな影響を与えられているようです。

色々な方々の地域づくりの話を伺って思うのは、最後は人とのつながりだということです。我々もさまざまなネットワークをうまく活用すれば、もっと活動を広げることができると思いますが、最近はお互いにかなり疲れ気味です。どう乗り越えていけるか、時には足元を見つめ直して課題を絞ることも必要かと思いました。

フォーラムを準備された皆様、本当にお疲れさまでした。

文： 佐々木 松夫



今日のような講師が並ぶ機会は滅多にありませんよという植野さんの声に促され、フロアからも活発な発言や質問が続きました。



1次会開始早々から、食・仕事・まちづくり等色々な話題で盛り上がっていました。国道7号でのジグスカン企画、実現したいですね。



1次会の勢いそのままに、2次会も大いに地域活性化について熱く語られました。皆さん、長い一日、お疲れ様でした。



フォーラム翌日は堀先生・木下さん・舟山さんに私たちの資源をみていただく現地ツアーにかけました。
手這坂（左上）では、どうやったら稼げるかなあと言う先生のお話が印象的でした。毘沙門憩いの森公園での木橋の説明には佐々木先生も力がいります（右上）。ときめき隊が製作途中の3艘目のこだわりカヌーには、木下さんが商工会事業として取り組めるかも！興味深々でした（左下）。



上町では魅力的な場所作りの具体例を教えてくださいました。